

# 広島港、21年コンテナ取扱量が急回復

前年比8%増、コロナ前比では1割減

港湾運営会社「ひろしま港湾管理センター」のまとめによると、広島港の2021年のコンテナ取扱量は、速報値で前年比8.0%増の24万2312TEUだった。新型コロナウイルスの影響で急激に落ち込んだ前年から回復傾向が顕著だ。一方、19年比では12.8%減となり、コロナ前の水準には戻っていない。特に自動車関連品を取り扱う海田コンテナターミナル（CT）が落ち込んでおり、オミクロン株の感染拡大や半導体不足で自動車の減産が相次ぐ中、今年の動向が注目される。

ターミナル別にみると、出島CTは9.3%増の13万8757TEU。19年と比べても1.6%減で、ほぼ同水準となった。月別では1～9月までプラスで推移。5～7月にかけては、5月：



今後の荷動きが注目される（写真は出島CT）

39.4%増（1万2157TEU）、6月：30.7%増（1万1836TEU）、7月：32.4%増（1万2448TEU）と3割以上増えた。これに対して、10月に17.3%減（1万1078TEU）と減少に転じた以降は、11月：5.4%減（1万1197TEU）、12月：4.8%減（1万1143TEU）と停滞しており、年明け以降の荷動きは不透明な状況だ。

海田CTは6.4%増の10万3555TEUと増加したものの、19年比では

24.4%減と大きく下回っている。海田CTは自動車関連品を取り扱っており、昨今の半導体不足が影響したとみられる。第1四半期（1～3月）はマイナスで推移したが、4月に74.7%増（1万0423TEU）とプラスに転換。5月：3.2倍（8086TEU）、6月：2.1倍（9406TEU）、7月：2.3倍（1万0457TEU）と急増。しかし、9月以降は、9月：24.5%減（6439TEU）、10月：46.5%減（5710TEU）、11月：28.8%減（6474TEU）、12月：7.5%減（9408TEU）と落ち込んでいる。

ひろしま港湾管理センターは、今後の見通しについて「22年は下半期に増加が期待できるものの、通年としては25万TEUとゆっくりした回復になるのでは」としている。